

崩壊熱評価ワーキンググループ議事録

開催日時： 平成3年5月31日 13:30-17:00（原研本部）

出席者： 井原、片倉（原研）、加藤、田坂（名大）、中嶋（法大）
橋、山田（早大）、吉田（東芝）

- 配布資料：
- a. 前回議事録（吉田委員）
 - b. Juelich会議論文コピー3件（吉田委員）
 - c. ENDF崩壊データ収納状況（吉田委員）
 - d. ANS Meeting (1992) Special Sessionの案内（片倉委員）
 - e. 米グループのNuclear Safety投稿論文原稿（片倉委員）
 - f. JNST投稿論文原稿（ベータ線スペクトル）（田坂委員）
 - g. ベータ線スペクトル計算結果（田坂委員）
 - h. FPGS90マニュアル原稿（井原委員）

議事：

I. 報告事項

(1) 一般報告

- 1) 資料b.に基づきJuelich会議の崩壊熱に関連した発表論文の紹介が吉田委員よりあった。なかでもINELのGreenwood, Helmerらの論文（Pandemonium効果の排除を実験的に行う）が特に興味深い。また、5月28日のProf. Klapdorの早大での講演内容が紹介された。
- 2) 来年夏のANS MeetingにおけるANS19特別セッションについての案内（資料d）が片倉委員よりあった。また、米国のANS5.1のグループがNuclear Safety誌に投稿を計画している原稿（資料e）が紹介された。また、この投稿は米国での崩壊熱関係の活動を活発化するという戦略的意味あるいはあるというコメントが吉田委員よりあった。

(2) 名大の活動報告及び計画

- 1) 資料f及びgに基づきベータ線スペクトル計算結果と測定との比較が田坂委員より報告された。短冷却時間で良く合うが、長冷却時間では計算のほうがハードになる。今後、ガンマ線スペクトルの計算も行う。
- 2) 学会賞のレビューペーパー及び今秋京都で開かれるFR91（炉物理国際会議）の発表論文を名大グループが中心となり纏める予定。
- 3) 60核分裂セットについて崩壊熱を計算する件、ある程度進んでいる。FPGS90とJNDC第2版で、多少ながら結果に差異があるので心配。井原委員と協力して理由を確認する。

(3) 崩壊熱計算コードシステムFPGS90の使用マニュアルについて

標記マニュアルが完成しつつあり、完成したらJAERI乃至JAERI-Mレポートとして刊行する旨、井原委員より報告があった。資料h.はこの原稿の主要部分。

II. 討議事項

(1) J N D C ライブライアリの改訂

大局的理論の強度関数と測定データを繋ぐ手法を活用し、何年かかけJNDCライブライアリの改訂を試みる。これに際し、これまでの方針と異なってくるとしても、ENSDFを出発点とし、これを大局的理論で補うという方向で進む。

(2) 核分裂収率評価および遅発中性子データ

Wahl流のやり方で核分裂収率評価に着手する方向でモデルを調べる。遅発中性子についても、wahl流のyieldを基に計算して見る。

III. Action List

- a. Hansenのベータ強度関数のレビューを田坂委員に郵送→吉田委員
- b. FPGS90とJNDC第2版の差異の理由を確認→井原委員、田坂委員